資料1-2
第43回復興推進委員会(2023-11-22)

令和５年度・現地調査報告（福島県：10月25日）

●実施日
令和5年10月25日（水）

●参加委員
今村委員長、白波瀬委員長代理、
浅野委員、奥野委員、関委員、戸塚委員、
藤沢委員、山﨑委員（計８名）

●訪問先
福島県大熊町、双葉町、浪江町

●行程

【大熊町】
①大熊町立学校 学び舎ゆめの森

【双葉町】
②拠点区域外（特定帰還居住区域）
③JR双葉駅周辺（特定復興再生拠点区域）
④浅野撚糸（株）フタバスーパーゼロミル

【浪江町】
⑤（有）柴栄水産
⑥震災遺構 請戸小学校
⑦福島国際研究教育機構（F-REI）

①大熊町立学校 学び舎ゆめの森

○「学び舎ゆめの森」は認定こども園を併設する義務教育学校（小中一貫校）で、令和５年４月には大熊町内で学校再開、８月（２学期）から新校舎での授業を開始。
【園児数】12名、【児童生徒数（小中）】20名 （いずれも10月16日現在）

○学校内を視察し、こどもたちの学びの様子を見学するとともに、校長との意見交換を実施。

〈意見交換の主な内容〉
- 特徴的な校舎や少人数であることなどを活かした特色ある教育の実施
- 学校の教育活動等を通じた地域全体の復興への貢献（地域にオープンな学校）
- 教育環境を維持・向上させるための財政支援（復興特会による教職員加配など）

学び舎ゆめの森での視察の様子

②双葉町・拠点区域外（特定帰還居住区域）

○令和５年６月の福島復興再生特別措置法の改正により拠点区域外の避難指示解除のための制度が創設（「特定帰還居住区域」制度）。令和５年９月に、大熊町・双葉町の一部区域について特定帰還居住区域復興再生計画を認定。

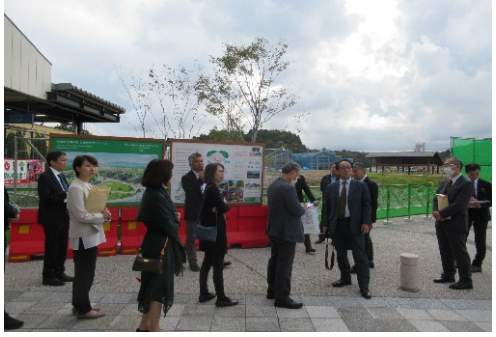
○同計画の対象区域である双葉町の三字行政区を視察しつつ、荒廃した家屋の状況や避難先での生活の様子などについて双葉町担当者から説明を聴取。

特定帰還居住区域での視察の様子

③JR双葉駅周辺（特定復興再生拠点区域）

○双葉町では、令和４年８月に「特定復興再生拠点区域」の避難指示を解除。

○同区域の中心地となっているJR双葉駅周辺（災害公営住宅等）を視察しつつ、住民の帰還・移住の状況や町の賑わいを再生するための取組等について双葉町担当者から説明を聴取（令和２～４年に引き続いて視察）。


JR双葉駅西口での視察の様子

④浅野撚糸（株）フタバスーパーゼロミル

○浅野撚糸（株）（本社：岐阜県安八町）が、令和５年４月に双葉町内に新たな撚糸工場をオープン。タオルショップやカフェを併設し、各種イベントも実施しており、地域内外から、人々が集う拠点にもなっている。

○雇用創出や交流人口拡大等について浅野委員（社長）から説明を聴取しつつ、施設内を視察。

浅野撚糸（株）での視察の様子

⑤（有）柴栄水産

○（有）柴栄水産は、浪江町に所在する明治創業の水産会社（鮮魚・活魚の販売及び加工に従事）。震災後長期の休業を経て、令和２年４月に営業再開。最新設備やHACCPに沿った衛生管理等も導入。

○施設内を視察しつつ、震災後の施設復旧や水産業の現状・取組等について説明を聴取。

（有）柴栄水産での視察の様子

⑥震災遺構 請戸小学校

○請戸小学校は、津波被害の痕跡が残る福島県内唯一の震災遺構。震災時、素早く機転を利かせた避難により、先生とこどもたちは全員が生存。

○施設内を視察しつつ、被害の状況や防災教育・訓練の重要性等について浪江町担当者から説明を聴取。

請戸小学校での視察の様子①

請戸小学校での視察の様子②

⑦福島国際研究教育機構（F-REI）

○令和５年４月、「創造的復興の中核拠点」となることを目指し、浪江町に、福島国際研究教育機構（F-REI）が設立。

○本施設予定地について説明を聴取した後、F-REIの研究開発等の取組状況について説明を聴取し、山崎理事長等との意見交換を実施。

〈意見交換の主な内容〉

- サイエンスコミュニケーター等による分かりやすい情報発信の必要性
- 地域の現場が抱える課題の積極的な把握と対応
- 農業をはじめ、地域に根差した研究開発の推進
- 大学生や高校生等を対象にしたトップセミナーの狙い・感触
- 海外の研究者の受入れについての地域住民の反応
- 交流人口拡大等への寄与に対する期待
- ５分野を横断・融合した研究開発の必要性
- 学校教育、こどもたちの学びへの関与・貢献
- 福島だけでなく、岩手・宮城との連携の必要性

F-REIでの意見交換の様子